

令和6年度 ～とちぎの未来を考える～ 栃木県議会 県政ミーティング
開催結果報告書（概要）

令和7年2月12日

1 開催の目的

とちぎの未来を担う子どもたちに議会に対する関心を高め、理解を深めてもらうための主権者教育の一環となるよう実施するものである。

2 開催概要

(1) 県立さくら清修高等学校

ア 日時 令和6年7月9日（火曜日）15時05分から15時50分まで

イ 場所 さくら清修高等学校 体育館

ウ 出席者 さくら清修高等学校：生徒 2年生約200名
県議会：日向野義幸議長、中島宏副議長、土屋晃子議員、池上正美議員、
佐藤晴彦議員、沼田邦彦議員、小林達也議員、板橋一好議員

エ 内容 自己紹介、県議会の役割・取組の紹介、意見交換など

○意見交換における生徒の主な発言（テーマ「私が描く栃木県の未来」）

- ・議員と生徒が意見交換できる機会を更に設けることで、生徒の政治への関心が高まると思う。
- ・県内の国公立大学に看護学部や薬学部を設置することで、他県の優秀な人材が集まり、県内医療の人手不足の改善や県内在住者の増加につながると思う。
- ・現在、栃木県は「いちご王国」として宣伝し、いちごの品種改良や生産に力を注いでいるが、他の農産物に対しての取組が希薄であるとも感じる。



(2) 県立宇都宮清陵高等学校

ア 日 時 令和6年11月26日（火曜日）15時45分から16時35分まで

イ 場 所 宇都宮清陵高等学校 体育館

ウ 出席者 宇都宮清陵高等学校：生徒 1、2年生約360名
県議会：日向野義幸議長、中島宏副議長、大久保ゆみ議員、星雅人議員、
小池篤史議員、小菅哲男議員、五月女裕久彦議員

エ 内 容 自己紹介、県議会の役割・取組の紹介、意見交換など

○意見交換における生徒の主な発言（テーマ「私が描く栃木県の未来」）

- ・ 私たちに身近な文化遺産としては、飛山城跡や竹下浅間山古墳があるが、文化遺産の魅力を伝えるためには交通の便をよくする必要があると思う。
- ・ 最近メディアでよく報道される南海トラフ地震に、私たちも備えなければいけないと思うが、防災用品を準備するなど県民一人ひとりが備えるには限度がある。
- ・ LRTのJR宇都宮駅西側延伸でどのような街づくりを目指しているのか。西側延伸により、通勤・通学時間帯が大混雑することが予想されるが、対策について教えてほしい。

3 県民への情報発信

(1) 県議会広報

県議会公式X、「県議会ハイライト」、「県議会とちぎ」での情報発信

(2) メディア

下野新聞、毎日新聞



4 アンケート結果

問1 議会の取組の説明について

説明は分かりやすかったですか。

回答項目	さくら清修高校	宇都宮清陵高校
分かりやすかった	43.59%	44.35%
やや分かりやすかった	29.74%	23.04%
普通	22.56%	29.13%
やや分かりにくかった	3.08%	0.44%
分かりにくかった	1.03%	3.04%

問3 県議会及び県議会議員について

県議会及び県議会議員を身近に感じることができるようになりましたか。

回答項目	さくら清修高校	宇都宮清陵高校
感じられるようになった	34.36%	39.13%
やや感じられるようになった	48.72%	36.96%
変わらない	12.82%	16.96%
あまり感じられなかった	3.08%	2.61%
感じられなかった	1.03%	4.35%

自由意見（抜粋）

さくら清修高等学校

- 政治が少し身近になった。これからは自主的に政治について学びたい。
- 議員が県のことを誰よりも考えていると感じた。
- 県政へ興味をもつきっかけになった。
- 議会では将来性などを考えて慎重に議論しているのだと感じた。
- 議論に時間がかかることが若い人の政治離れにつながっていると思う。

問2 質疑・応答について

県議会や議員への理解は深まりましたか。

回答項目	さくら清修高校	宇都宮清陵高校
高まった	35.90%	40.44%
やや高まった	50.26%	41.30%
変わらない	13.85%	18.26%

問4 県議会議員を身近に感じられるための情報について

県議会議員について、このような情報を知れば、より身近に感じられるという情報を教えてください。

回答項目	さくら清修高校	宇都宮清陵高校
趣味	41.30%	47.60%
得意なスポーツ	9.24%	16.83%
好きな食べ物	12.50%	8.17%
好きな芸能人	12.50%	9.62%
好きな漫画	19.02%	13.46%
その他	5.44%	4.33%

宇都宮清陵高等学校

- 議員がフレンドリーで、楽しく参加できた。
- 議会を通して県の様々なことが決められ、実行されていることがわかった。
- 議員と議論できる機会はめったにないため、意見が聞けて良かった。
- 地域に関する取組や今後の栃木県の課題について、関心が高まった。
- 政治に対しての知識が高まり、しっかりと選挙に参加しようと思った。

5 参加議員の感想

(1) さくら清修高等学校

土屋議員 生徒の皆さんと直接話げできたことで、県議ををより身近に感じてもらえたと思います。私自身も提案やご意見を聞かせていただき、大変参考になりました。貴重な経験をさせていただきありがとうございました。

池上議員 昨今の若い人は、政治に関して興味や意見がないと言われているが、身近な話題に関しては、様々な意見を持っていることが分かりました。やはり、問題の解決にはスピード感がとても重要であること、また、解決まで至らなくても、丁寧な説明と対応が大切と思いました。

佐藤議員 高校生から生の意見を聞く良い機会となりました。地域公共交通の維持や学校設備の改善、多様性の在り方、子育てなど、高校生が未来を危惧していることを知り、私もより一層議員活動を通して若者の意見を傾聴したいと思いました。

沼田議員 高校生目線の県政への関心、まちづくりへの思いや情熱を強く感じました。とちぎの魅力発信やあるべき姿にも思いを強く持たれていて、頼もしくも感じました。

小林議員 今回の意見交換会を通じて、高校生が県議会や政治に対して興味を持ち、身近に感じてくれたことを嬉しく思います。今後も若い世代が県政に関心を持ち、積極的に参加できるよう、引き続き情報発信や交流を大切にしていきたいと感じました。

板橋議員 真面目に取り組む姿勢が感じられました。
質疑はもう少し踏み込んでも良かったのではないかと思います。

(2) 宇都宮清陵高等学校

大久保議員 高校生の声を直接聞くことができ良かったです。もっと様々な高校とつながれたらと思います。生徒の皆さんには、本会議や委員会など、県議会にもぜひ傍聴に来てもらいたいと思います。

星議員 高校生の関心事、いただいた前向きな意見に議会全体を通して答えることができる場となったので、県議会を身近に感じてもらうことができたのではないかと思います。

小池議員 高校生が、本県が抱える様々な課題をととても深く考察していることに驚きと喜びを感じました。懸命に問題意識を訴える姿に本県の未来への希望が持てましたし、刺激にもなりました。

小菅議員 生徒たちは、地域や行政、農業、食糧、様々な課題に対して問題意識を持っていると思います。県議会は高校生にとって未知の世界だだと思いますので、これからも開催を継続することで様々な好影響が望めると思います。

五月女議員 真剣に議論する生徒たちが非常に印象的でした。特に、日本の農業の課題についても的確な指摘をいただき、大変驚きました。今後も若い人の期待に応えられるよう頑張りたいと思います。

6 まとめ

本年度の県政ミーティングは、県立さくら清修高等学校と県立宇都宮清陵高等学校で開催したが、参加した議員一同、生徒と直に意見交換ができたことを非常に有意義に感じた。また、多くの生徒に「県議会及び県議会議員を身近に感じることができるようになった」と感じていただけたところであり、開催の目的を果たすことができたと考えるところである。

これからの時代を担う若者のエネルギーが、世の中を変える大きな原動力になることから、県民により身近で開かれた県議会を目指し、こうした県議会と若者との交流を図る取組を継続し、深化させていくことが、本県議会にとって、そして県民にとっても非常に重要と考える。

次年度以降の開催に当たっては、議員はもとより、学校関係者や生徒からの声などを踏まえ、より効果的な内容となることを期待したい。